



- 巻頭言『形成外科に従事して』
昭和大学藤が丘病院 形成外科 教授 角谷徳芳
- 『医薬品副作用救済制度をご存知ですか?』
昭和大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 薬局
- 『看護の日を開催して』
昭和大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 看護部
- 昭和大学公開講座を開催します
- 東日本大震災 義援金募金活動について
- クールビズを行っています
- 平成23年度新入職員を迎えました

巻頭言 『形成外科に従事して』



形成外科
教授・医長 角谷徳芳

私が形成外科に従事し、まず感じたことは脳・目・耳・鼻・皮膚などの臓器が標榜にある科と異なりこのネーミングでは何をしてくれる医者なのか理解できないのではということでした。整形とどう違うのか、美容整形と違うのかなど何度も質問を受けました。今でこそ少しずつ患者さんに理解してもらえるようになりましたが、それでも他科からの依頼を受けなければ、患者さん自身が直接外来を訪ねるケースは決して多くありません。そんな中で、藤が丘病院に赴任して24年になりますが、その間を振り返ると初期の頃は他科にしてみれば「困ったときだけの形成外科」としての存在だったのかもしれませんが、しかし、自らアピールし続けなければならない形成外科としては、何とか他科に認めさせようと努力し続けなければなりません。そのためには顔面のみならず足の末端まで幅広い範囲での軟部組織を扱う

科として成長する必要がありました。口唇口蓋裂を中心とした先天異常からマイクロサージャリーによる耳

鼻科における咽頭再建、切断指再接着整形における開放性骨折の軟部組織再建など幅広く機能と形態を常に意識して手術にのぞまなければなりません。そして高齢化時代を迎えた今日では老人における形成外科治療が盛んになりました。たとえば、老人に多い皮膚悪性腫瘍では同時再建まで行えることから、治療期間短縮が魅力となっています。また、内科で治療困難な重症下肢虚血疾患の外科治療により疼痛から解放してあげられることで重宝がられています。最近では、老人性眼瞼下垂の手術が増加し、中年女性は若返り効果に期待を抱きながら手術を受けておられるようです。このように常に時代に即した疾患を受け入れながら患者さんに喜びを与えようとするのが形成外科の務めであり、魅力でもあるでしょう。

こうした時代の流れに流されながらでいつの間にか形成外科医になって37年になりました。そろそろ定年が見えてきた今でも私の専門は口唇口蓋裂の治療です。

多くの口唇裂の新生児を手術して母親から涙ながらに感謝され、そしてその子供達が立派に成長していくことに生き甲斐を感じながらまだまだ手術法を開発しようとしています。

しかし、私の恩師が定年を迎えるにあたり、「光陰矢のごとし…学成りがたしな角谷」ぼつりつぶやいた言葉を思い出します。

ふと我に返り私も同じ言葉をつぶやくことになるでしょう。

医薬品副作用救済制度をご存知ですか？ 昭和大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 薬局

医薬品副作用救済制度

みなさん、医薬品を正しく使用したにもかかわらず、副作用は起こることがあります。その際、救済する公的な制度があるのをご存知ですか？

医薬品副作用救済制度は、病院・診療所で処方されたお薬、薬局で購入したお薬を適正に使用したにも関わらず発生した副作用により、入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済するものです。給付の請求は、健康被害を受けたご本人またはその家族が、直接医薬品医療機器総合機構に対して行います。その際に医師の診断書が必要となります。提出いただきました書類をもとに、厚生労働省による審議を経て、支給の可否が決定されます。

●給付の種類

- ・入院を必要とする程度の健康被害で医療を受けた場合 ①医療費 ②医療手当
- ・日常生活が著しく制限される程度の障害がある場合 ③障害年金 ④障害児養育年金
- ・死亡した場合 ⑤遺族年金 ⑥遺族一時金 ⑦埋葬料

●救済の対象にならない場合

- ①法定予防接種によるものである場合
- ②製造販売する企業などに損害賠償の責任が明らかな場合
- ③救命のためやむを得ず通常の使用量を超えて使用したことによる健康被害で、その発生があらかじめ認識されていた場合などの場合
- ④対象除外医薬品(抗がん剤、免疫抑制剤など)による健康被害の場合
- ⑤医薬品副作用のうち入院を要する程度ではなかった場合などや請求期限が過ぎている場合、医薬品の不適正な使用によるものである場合

●救済制度相談窓口

0120-149-931 相談時間:平日9時～17時00分(相談窓口専用)

Eメール kyufu@pmda.go.jp ホームページ <http://www.pmda.go.jp>



看護の日を開催して

昭和大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 看護部

東日本大震災で被災地の皆さまには心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

「看護の日」の由来は、「21世紀の高齢化を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合う必要があります。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、1990年に制定されました。5月12日の意味はフローレンス・ナイチンゲールの功績と生誕にちなんだものです。」

今年度、看護の日メインテーマ「看護の心をみんなの心に」をもとに、藤が丘病院とリハビリテーション病院合同で、患者、地域住民の皆さまへメッセージカードとバンドエイドを配布し、看護の日のPRを行いました。

患者さんや地域住民の方から「ポスターを見たから知ってるよ」「新聞に書いてあったわ」「5月12日の意味がわかったわ」等の反応がありました。

病院長をはじめご協力頂いた関係部署の皆さまに感謝申し上げます。

(看護部 塚口たき江、水川寿子)



昭和大学公開講座—青葉区大学リレー講座—を開催します

平成23年7月2日(土)午後2時より、『夏に気をつけたい病気(食中毒・熱中症)』と題し、昭和大学公開講座を開催いたします。たくさんのご応募お待ちしております。

- 『バイ菌と食中毒』 講師 臨床検査部 主任 中村久子
- 『熱中症にならないために』 講師 救急医学科 講師 佐々木 純

◆募集要項

1. 定員120名
2. 申込方法
往復葉書、往信用に「昭和大学公開講座希望」と明記し、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入してお申込ください。
なお、返信用に申込者の住所・氏名(あてな)も忘れずに御記入ください。(※はがき一枚につき2名様まで申込可能です)
3. 申込先
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘1-30 昭和大学藤が丘病院 管理課 庶務係
4. 問合せ先
045-971-1151(代表)
5. 申込締め切り 平成23年6月24日(金)必着
※定員になり次第締め切りさせていただきます。

東日本大震災 義援金募金活動について

東日本大震災にて被災された地域の皆様ならびにご関係の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

本学では被災地に救護班を派遣するなど、総力をあげて支援活動に取り組んでおります。このたび支援活動の一環として、義援金の募金活動を実施することといたしました。お預かりした義援金は、日本赤十字社を通じて被災地にお届けいたします。

- 受付場所 昭和大学藤が丘病院 地下1階守衛室/昭和大学藤が丘リハビリテーション病院G階守衛室
※義援金受付口座もございます。詳細は昭和大学ホームページ(<http://www.showa-u.ac.jp/>)をご参照ください。

クールビズを行っています

昭和大学一丸となり、平成23年9月30日(金)までCOOL BIZ(クールビズ)に取り組んでおります。室内の設定温度は28℃になっております。

皆様のご理解・ご協力の程よろしく願いいたします。

(※気象条件によりクールビズ実施期間は変更する場合がございます。)



平成23年度 新入職員を迎えました

平成23年4月5日(火)～平成23年4月6日(水)にかけて新入職員オリエンテーションを開催いたしました。今年度は134名の新入職員を藤が丘病院にて迎え、5日(火)は、横浜市資源局や神奈川県青葉警察署、横浜市消防局の協力のもと、ごみの分別、防犯、消防訓練等について講義を受けました。翌6日(水)は、医療安全や診療情報管理についての研修を受け、さらにはJALアカデミーの講師を招き接客・マナーについての研修を受けました。



予め消火器の使用方法の講義を受け、実際に駅前駐車場屋上にて消火器を利用した訓練を行いました。



横浜市青葉消防署の協力のもと、例年の消火器訓練に加えて、煙のテントを利用した煙体験を行いました。体験者から『視界が思っていた以上に悪かった』などといった意見があり、実体験に近い訓練を行うことが出来た様子でした。

●臨床研修医より

始めまして。研修医一年目の高橋健一と申します。この度、藤が丘病院で初期臨床研修をさせていただくことになりました。同期は21名です。内部生、外部生の数居もなく、皆よき仲間です。平成23年4月1日に入職式があり、一週間のオリエンテーションの後、各診療科での研修が始まりました。医師としてのスタートであると同時に、社会人としてのスタートでもあります。至らない点が多々あることと存じますが、一日一日を大切に、努力して参りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

【診療統計】2011年3月～4月()内は1日平均

	藤が丘		リハビリ	
	3月	4月	3月	4月
外来患者数	35,513人 (1,365.9人)	33,962人 (1,358.5人)	6,869人 (274.8人)	6,478人 (259.1人)
入院患者数	15,675人 (505.6人)	15,387人 (512.9人)	5,792人(193.1人)	5,668人 (188.9人)

編集後記

5月も中旬となり、湿気が多く、なんとなくすっきりとしない気候が続いていますが、先日色鮮やかに咲いている紫陽花を目にしました。私たちにとっては、じめじめとした雨が続く嫌な季節ですが、植物にとっては恵みの雨となっているようです。一年に一度楽しめるこの時季ならではの風景を皆様も楽しんでみてはいかがでしょうか。
(広報委員 太田麻美)

広報委員 三邊武幸 末木博彦 吉村吾志夫
谷山松雄 扇谷浩史 池田裕一 田口清 高橋良昌
上ノ宮彰 西山謙一 岩田香苗 吉原利栄 伊藤久美
高橋良治 庄司博 佐藤薫 大森章弘 渡邊哲
太田麻美 (順不同)